

訪れる人、迎える人...
みんなに聞きました



遠藤千尋さん

23歳 奈井江町出身
札幌学院大学大学院2年

高原智也さん

24歳 滝川市出身
北海道情報大学4年

商工会青年部長の
加藤真吾さんにも
インタビュー!



学生特派員レポート vol. 1

学生特派員レポートは、江別市内の大学に通う学生さんに、町外に住む若者といった視点から自由に南幌町を取材してもらうコーナーです。

7月21日、気温は25度を超え、立っているだけでも汗がにじむような暑い日でした。しかし、それを忘れさせるぐらいのたくさんの方々の笑顔・活気が溢れた会場。ふれあいまつりとは普通のお祭りとは何が違うのでしょうか？

◆ふれあいまつりの歴史

『商工会ふれあいまつり』は、約40年前から時代の変化と共に名前が変わりつつも、長年開催されてきたお祭りです。昔は『ビールパーティー』として開催されていましたが、協力してくれる方々も次第に入れ替わり、現在の『商工会ふれあいまつり』となつてからは、今回が8回目の開催です。(遠藤)

◆町の特長を活かした催し

この日、予定よりも早めに到着することができ、開会を待つはずが、既に会場は来場客でいっぱい。長い列の先にあるのは、お祭りでは馴染みの屋台やフリーマーケット。ここでは、手作り品やたくさんの方々の洋服、家具までもが揃っていました。そして忘れてはいけないのが、南幌町の『野菜』。キャベ

ツやピーマン、長ねぎなど、南幌産の美味しそうな野菜がズラリと並ぶお店も多くありました。野菜詰め放題のイベントも開催されていて、周りには、袋いっぱい野菜を詰め込み笑顔の方々が、これで300円、驚きです。(高原)

◆想いが込められた展示の数々

フリーマーケットでは、まちのお母さんたちがハンドメイドのピアスやイヤリングを売っていたり、使わなくなったものを捨てるのではなく必要としている方に手に取っていただけるように、多くの物を販売していました。

他にも、石狩川の保全活動をしている方々が出展していて、石狩川に少しでも興味を持ってもらえるようなキッカケ作りがなされています。ミズゴケの里親活動も行っていて、誰でも育てられるよう工夫していました。石狩川に生息しているコケを私も分けていただき、育てている最中です。順調に育っているコケが可愛いです。(遠藤)



◆様々な催しが飽きさせない

ステージでは来場者参加型のゲームが行われていて、私もOMUXクイズに参加してみました。地元に関するお題が多く、苦戦しましたが、南幌町をよく知るきっかけになりました。賑やかなステージを眺めながら、屋台の商品もたくさんいただきました。私のオススメは、南幌めぐみ学園の方々が心を込めて作っているという『南ちゃってせんべい』。手作りのエゴバツクに入れて手渡してくれたそのせんべいの味は、ほんのりと優し

い甘みで心温まりました。夜には抽選会や花火大会もあって、最後までお楽しみでいっぱいでした。(高原)

◆ふれあいまつりへの“想い”

「誰もが『ふれあえる』お祭り」に、「そして「来てくれた人が『笑顔』になつてくれるためには、自分たちも『笑顔』でいること」。そう語ってくれたのは、主催をしている方々や、地域の議員さんでした。このふれあいまつりは、たくさんの方が「熱い想い」を持っているからこそ、成り立っているのだと感じました。(遠藤)

取材を終えて

普段は、お祭りを主催している方々がどのような想いで運営されているのかなど、考えたことがありませんでした。しかし、インタビューを引き受けていただいた方々の熱意がたくさん伝わってきて、様々な地域のお祭りに対する見方が、自分自身の中で少し変化した瞬間でもありました。

また、お話を伺いしている中で、南幌町は約6割の方が移住者であると知りました。移住の決め手となる魅力が南幌町にはあるのではないかと感じました。ある方は「若い人からお年寄りまで、誰ひとり残さないまちをつくりたい。」そう語ってくれました。町民の方、一人ひとりを想う気持ちがこの

まちには溢れているのでしよう。まちにはたくさん課題もあるかもしれませんが、皆が安心して暮らせるまちを皆でつくる、それはきっと、まちの魅力の一つではないかと感じます。(遠藤)



機会であると感じました。

出店者同士の差し入れが見られたり、インタビューも笑顔で応じていただけたりと、南幌町の方々の温かみや地域の繋がりの強さを感じられました。やはり、地域の魅力を知るには、実際にそこへ行き、体験することが一番だと気付かされました。

ぜひ、多くの方が南幌町を訪れ、まるで自分の地元かのような親密な温かみを感じる、そんな体験を味わってほしいです。(高原)

「ふれあいまつり」、この名前にとっても納得しています。このイベントは、笑顔が溢れ、活気があり、そして人々が触れ合える絶好の

この取り組みは地方創生推進交付金を活用し、江別市を中心に近隣自治体とともに展開している広域連携事業「ジモ×ガク」の一環です。